

オルガノン要約 § 79～§ 90

§ 79 慢性マヤズムの病気

梅毒/SYPHILIS：不治の病として死とともに消えると思われてきた。

淋病/SYCOSIS：これも不治の病だが、皮膚の腫瘍を破壊するだけで治癒したと考えられてきた。

§ 80 乾癬マヤズム（ソーラ又はソーラ/PSORA）

梅毒、淋病よりも計り知れないほど蔓延し、はるかに重要なマヤズム。

ソーラは身体全体が完全に内的に感染した後になって初めて特有な発疹が出る。

ソーラはほとんど全ての数え切れない病気を生み出す真の根本原因である。

（注）ソーラを探求し、抗ソーラのレメディを見出すのに 12 年費やした。

抗ソーラレメディ（ソーラから発生した慢性病に対する特殊なレメディ）を適用できれば、完全な治癒を達成できる。

§ 81 この感染症（ソーラ）は数百世代にわたり少しずつ受け継がれ、広範囲に無数の病気の形をとって蔓延した。こうして生み出されたものには別々の病名がつけられた。

（注 1）ソーラを慢性病に変化させる要因：

A) 居住地の気候や特有の風土。

B) 幼少期の常軌を逸した心身の教育。おろそかにされたり歪められたり、やりすぎた心身の訓練。

C) 仕事や生活環境、食事制限、情念、風習、習慣上の心身の乱用。

（注 2）

異なった病気に対して、通常医学ではやたらに曖昧な名前をつけて画一的に理解し、画一的な治療をしている。つまり本質的に異なる病気に対して同じ治療をして来た。

いかなる流行病もかつて存在していたものではなく、それぞれ本質的に異なったものとして治療しなければならない。よって真の治療家は、こうした無益で乱用された病名のいかなる影響も受けてはならない。

真の治療家は病名ではなく、患者一人ひとりの固有の徴候の余すところのない総体全体にしたがって診断し治療しなければならない。それは正確でなければならず、憶測で決めるべきではない。病気の中に変化のない固定的な病気は存在しない。

§ 82 ホメオパシーはソーラに対して治療すべき多数の病気のもつ本質に近づいた。

しかしこれからも慢性病の診察可能な症状とその特性を注意深く理解していかなければならない。

真の治療はそれぞれの症例を厳密に特有の処置（個別化）をすることから始まる。

急性病の場合は、おのずからほとんど全ての情報が提示される。

慢性病の場合は、症状を見つけ出すことさえ困難である。

<ケーステイキング（§ 83～99）>

§ 83 症例を”個別化”したものとして捉えるためには・・・

- A) 偏見を持たないこと。
- B) 健全な分別を持つこと。
- C) 症状像を注意深く観察すること。
- D) 忠実に記録すること。

§ 84 セッションでの心構え：

- A) 感覚器官を総動員して、
- B) 患者に起こった変化と異常を
- C) 患者と同じ表現で、
- D) 全てを、
- E) 正確に記録する。
- F) 自分は黙ったままで、患者と家族に話をさせる。
- G) 話をさえぎってはならない。

§ 85 カルテ記載時は改行すること。

全ての症状は、後で書き加えられるよう一つずつ離して記載すること。

§ 86 患者が話したいこと（症状）を全て話したらそれを質問で具体化していく。

例)「いつからその症状が始まりましたか?」「どんな痛みですか?」

§ 87 「はい」「いいえ」で答えるような質問はしてはいけない。半分しか本当でないときもどちらかにしなければならないから。即答できるような質問も良くない。患者が誤ることもあるから。

(注)「～ではないですか?」という質問は誘導的になるのではではない。

§ 88 症状の全体像を得るために、足りないところは一般に使われている言葉で質問しなければならない。

(注) 例)「便の出はどうですか?」「昼間や夜の睡眠はどうですか?」「心の状態、気分、思考力はどうですか?」「一番おいしい食べ物と飲み物は何ですか?」

§ 89 唯一信頼が置けるのは患者の言葉のみである。患者の話すことに全幅の信頼を置くこと。

(注) 個々の症状について詳しく聞いていく例。非常に具体的で有用なガイド。

§ 90 カルテには医師が気づいたことも記入する。それが以前の状態から変化したものなのかを確認すること。

(注) 医師が気づくこと具体例